第79回日本臨床眼科学会 アフタヌーンセミナー11（AS11）

2025年10月10日（金） 15:45 ▶ 16:35

第1会場 大阪国際会議場5F 大ホール

すべて教えます 前視野緑内障

年齢×リスク因子で導く PPGの予後改善アプローチ

座長

中澤 徹 先生　東北大学

毎年、日本臨床眼科学会にて開催してまいりました本セミナーも、おかげさまで干支がひとまわりする節目を迎えました。緑内障は、長期にわたって経過を診ていく疾患であり、PPGと向き合うためには、年齢という要素を認識した上で診療にあたる必要があります。

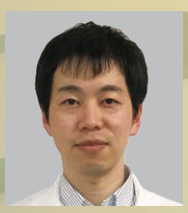
そこで本年は、「年齢」を縦軸に、「近視」「眼圧」「全身因子」などを横軸にとり、年代ごとに適した検査、治療、フォローアップについて考察するセミナーを企画いたしました。年齢は、外来で必ず確認できる指標です。それを起点に、多様化・複雑化する緑内障診療をマトリクスで捉えることで、より体系的で実践的なアプローチが可能となります。今回は瓶井学会長のご発案によるアフタヌーンセミナーとして開催される運びとなりました。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

講演 1

40歳～59歳 編

齋藤 瞳 先生　東京大学



講演 2

60歳～79歳 編

横山 悠 先生　東北大学

講演 3

80歳～を見据えて 編

吉川 啓司 先生　吉川眼科クリニック

共催：第79回日本臨床眼科学会／日東メディック株式会社

すべて教えます
前視野緑内障

年齢×リスク因子で導くPPGの予後改善アプローチ

2003年　東京大学医学部 卒業
2003年　東京大学医学部附属病院眼科 研修医
2005年　東京大学医学部附属病院眼科 医員
2006年　多治見市民病院眼科
2009年　東京大学医学部附属病院眼科 助教
2011年　公立学校共済組合関東中央病院眼科 医長
2019年　東京大学医学部附属病院眼科 講師

講演 1

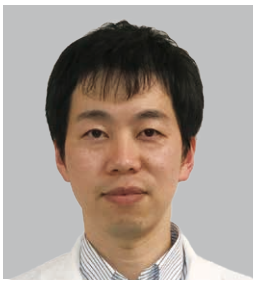
40歳～59歳 編

東京大学

齋藤 瞳 先生

Preperimetric glaucoma（PPG）は検査で検出できうる中で最も早期の緑内障であるため、必ずしも治療が必要ではない。しかし、PPGであっても積極的な治療が必要な症例や詳細な経過観察が必要な症例は多くある。

本講演では、「年齢」という観点からPPGの管理について考えてみたい。40～59歳は仕事も忙しく、パソコンやスマホ使用頻度が高く、現代的な目の使い方をしているため、僅かであっても中心視野障害の与える影響が大きいことに留意が必要である。その他、若年者の緑内障は近視を伴う割合が高いのも特徴である。また、治療が必要と判断した場合にはコンプライアンスを考慮した処方を検討する必要がある。



2004年　東北大学医学部 卒業
2006年　東北大学眼科 入局
2008年　石巻赤十字病院眼科
2010年　東北大学病院眼科
2011年　東北大学大学院
2015年　東北大学病院眼科 助教
2019年　東北大学病院眼科 助教／病院講師
2022年　東北大学病院 講師（現職）

講演 2

60歳～79歳 編

東北大学

横山 悠 先生

人生100年時代といわれる現代において、長期的な健康維持はますます重要となっている。中でも視機能の保持は生活の質に直結し、慢性進行性で不可逆性を有する緑内障への対応は、従来にも増して長期的視点が求められる。本講演では、前視野緑内障（PPG）を対象とし、「60歳～79歳編」としてこの年代におけるリスク評価と治療アプローチを再考する。平均寿命が延びる中、60歳代・70歳代においても、将来の視機能障害を見据えた慎重な戦略が必要である。多様な価値観を持つ患者と向き合う上で、画一的な対応ではなく、年齢とリスク因子を複合的に捉えた柔軟なアプローチが求められる。既存データと臨床経験を踏まえ、より満足度の高い診療の在り方を模索したい。

1976年　日本医科大学医学部 卒業
1976年　東京女子医科大学眼科学教室
1985年　東京女子医科大学眼科学 講師
1987年　オリンピアクリニック眼科
1995年　吉川眼科クリニック 院長

講演 3

80歳～を見据えて 編

吉川眼科クリニック

吉川 啓司 先生

クリニックに受診する緑内障の多くはNTGあるいはPPGであるが、その視野障害（VFD）の進行は緩徐であることが報告されており、そこで、従来は暫くの経過観察期間を置き、その後に要あれば、治療開始することを私的マネジメントの原則としていた。

しかし、長期に経過観察すればVFDは明らかに悪化し、加えて、高齢化社会かつ健康寿命の延伸が現実化している。従って、NTG/PPGでもQOVの確保は「従来の暗黙知プラス20年以上」にわたることも想定されており、となると、従来のそれに囚われないPatient orientatedのマネジメントを目ざし、一歩を踏み出すのは「今デショ！」。

そこで、今回、「今日、外来で診るNTG/PPG」に対し「80歳～を見据えたQOV確保」を目ざすアプローチについて検討した。

ZZ0601A25A
2025年8月作成（MT）